

## 第7章 2.織豊政権 c、秀吉の対外政策 (2)

1587(天正15)年、秀吉は[1 **対馬**]の宗氏を通し朝鮮に[2 **入貢**]と[3 **明**]への先導を求めた。朝鮮がこれを拒否すると、秀吉は肥前の名護屋に本陣をきずき、1592(文禄元)年、15万余りの大軍を朝鮮に派兵した([4 **文禄**]の役)。釜山に上陸した日本軍は、鉄砲の威力などによってまもなく漢城(現、ソウル)・平壤(現、ピョンヤン)を占領したが、[5 **李舜臣**]のひきいる朝鮮[6 **水軍**]の活躍や[7 **義兵**]の抵抗、[8 **明**]の援軍などにより、しだいに戦局は不利になった。そのため現地の日本軍は休戦し、秀吉に明との講和を求めたが、秀吉が強硬な姿勢をとり続けたため交渉は決裂した。

1597(慶長2)年、秀吉はふたたび朝鮮に14万余りの兵をおくったが([9 **慶長**]の役)、日本軍は最初から苦戦をいられ、翌年秀吉が[10 **死亡**]すると撤兵した。前後7年におよぶ日本軍の朝鮮侵略は、朝鮮の人びとを戦火にまき込み、多くの被害をあたえた。また国内的には、ぼう大な戦費と兵力を無駄についやす結果となり、豊臣政権を衰退させる原因となった。

### ③日本を中心とした東アジアの国際秩序構築をめざす

→[11 **明**]の征服を企て、[12 **朝鮮**]国王の入貢と明への先導を要求(仮道入明)

↓

[13 **1592**]年、朝鮮に侵入([14 **文禄**]の役)

全土に進出、朝鮮水軍の活躍、義勇軍の抵抗、明軍の援軍→しだいに劣勢に

↓

1593年 休戦の成立→1597再度、朝鮮に出兵([15 **慶長**]の役)→秀吉の死で撤退

## d、桃山文化

①桃山文化…[16 **信長**][17 **秀吉**]の時期の文化。

特色…[18 **新鮮味あふれる豪華・壮大な文化**・**現世的な性格**

[19 **金・銀**]を多用する

### ②桃山文化の背景

戦国時代の終焉と、富と権力を集中した[20 **統一国家**]の形成

[21 **実力主義**]の風潮(新興武士勢力の台頭、[22 **豪商**]の活躍)

[23 **ヨーロッパ**]人の来航、キリスト教の伝来

[24 **宗教**]勢力の弱体化(←信長による[25 **比叡山焼き討ち**])

③中心=[26 **城郭**]建築([27 **軍事施設**]→[28 **権力のシンボル**]としての要素を強める)

安土城、大阪城、[29 **伏見**]城、聚楽第など (→[30 **姫路**]城…時期は遅れる)

建築様式=[31 **書院**]造が基礎、

障壁画=[32 **濃**]絵…[33 **金箔**]地に青や緑で彩色

[34 **狩野**]派全盛(永徳、山楽など)、海北友松・長谷川等伯

彫刻=[35 **欄間**]彫刻(→[36 **豪商**]は衰退)

工 芸=[37 **蒔絵**]の発達

③[38 **町衆**]文化…[39 **京都**]・大坂・[40 **堺**]・博多などの都市の富裕な町衆が担い手

④茶の湯→[41 **千利休**]が茶道を確立、「侘び茶」…42 **わびとさび**の精神「**素朴な草庵の茶**」

茶室建築([43 **妙喜庵待庵**]など)

陶磁器→茶道につれて発達、[44 **朝鮮出兵**]に際し多くの陶工を連行(有田・伊万里・萩・薩摩)

花道、香道の発達

⑤芸能 [45 **出雲阿国**]の念仏踊り→[46 **歌舞伎**]へ、人形浄瑠璃なども

## 3. 幕藩体制の成立 a、江戸幕府の成立

[47 **三河**]の小大名出身の徳川家康は、織田信長と同盟し、東海地方に勢力をふるった。信長の死後、[48 **小牧長久手**]の戦いで[49 **豊臣秀吉**]と戦い、その後和睦、豊臣政権に組み込まれた。1590(天正18)年には、北条氏滅亡後の[50 **関東**]に移され、約250万石の領地を支配する大名となった。さらに[51 **五大老**]の筆頭という地位を利用して、秀吉の死後に地位を高めた。

こうした動きをきらった[52 **五奉行**]の一人[53 **石田三成**]は五大老の一人[54 **毛利輝元**]を盟主にして挙兵、[55 **1600**]年家康と彼に従う福島正則・黒田長政らに戦いを挑んだが敗れた。([56 **関ヶ原**]の戦い)

この戦いに勝利した家康は、[57 **1603**]年、[58 **征夷大將軍**]の宣下を受け[59 **江戸幕府**]をひらいた。しかし、家康に従わない秀吉の子[60 **豊臣秀頼**]がいぜん大坂城におり、名目的に秀吉以来の地位を継承していた。1605(慶長10)年、家康は將軍職が徳川氏の[61 **世襲**]であることを示すため、子の[62 **徳川秀忠**]に將軍の地位を譲り、自らは駿府に移り、[63 **大御所**](前將軍)として実権はにぎり続けた。そして、豊臣氏が建立した京都[64 **方広寺**]の鐘銘を口実に、1614～[65 **1615**](慶長19～元和元)年、[66 **大坂の役**]で豊臣方に戦いをしかけ、攻め滅ぼした。

①[67 **徳川家康**]…織田信長の同盟者として台頭、豊臣秀吉の下でも勢力を持続  
1584小牧長久手の戦い→1590 関東地方に移る(拠点=[68 **江戸**] 260万石)

↓

②[69 **五大老**]の筆頭として、秀吉死後の政治の実権を把握  
→加藤、福島ら武断派と結んで、[70 **1600**]年、[71 **石田三成**]らに関ヶ原で破る  
→改易([72 **領地没収**]) 87家414万石、減封([73 **領地削減**])3家207万国  
=計622万石を没収、3/4を各家に分配、転封([74 **国替え**])  
※ただし、西軍でまったく減俸されなかったのが[75 **島津**]氏

③[76 **1603**]年、家康、[77 **征夷大將軍**]となる([78 **江戸幕府**]成立)  
→1605年にその地位を秀忠に譲る。=79 **徳川家が將軍を世襲し、豊臣に譲らないことを表明**  
ただし実権は家康が掌握しつづける([80 **大御所**]政治)

④1614～[81 **1615**] 大坂の役で[82 **豊臣**]氏を滅ぼす=戦乱の終結([83 **元和偃武**])  
→1616 家康病死

⑤以後、秀忠、[84 **家光**]のもとで[85 **武断**]政治展開